NC工作機械向け

USBデータ入出力装置を開発

NC周辺機器の協立アスリック

フロッピー代替に提案

切削加工業者中心に需要見込む

NC周辺機器のハード・ソフト開発を手掛ける協立アスリック（前橋市下大島町410－1、高山裕社長☎027～280～8370）はこのほど、NC工作機械用のUSBデータ入出力装置「U－Port Pro」を開発、販売を開始した。従来、NC工作機械に使用するデータの入出力は、フロッピーディスクを介するものが多かったが、同ディスクの生産中止を受け、USBメモリに切り替える動きが加速。RS232Cケーブルを装着するだけで、USBメモリに保存したデータを簡単に入出力できる小型装置をラインアップした。旋盤やマシニングセンタなどを所有する切削加工業者を中心に需要を見込んでおり、年間120台の販売が目標だ。

（塚越吉洋）

販売を開始した「U－Port Pro」（定価15万5000円）

NC工作機で使用する加工データは単純なものであれば、工作機自体の操作パネルでも作成できるが、CAD／CAMなどを用いた複雑なものになると、パソコンで制作した後、フロッピーディスクに保存。

専用の入出力装置により、工作機に読み込ませるのが一般的で、同社が91年の設立以来、販売・メンテナンスを展開している協立システムマシン製品のフロッピー入出力機「D－V」シリーズも、これまでに1万台以上を販売する大ヒット商品となっている。

高山社長

一方、メーカー各社のフロッピーディスクの生産中止を受け、USBメモリへの代替が進展。同社でも3年前にUSBメモリ用の入出力装置「U－Port」を開発したが、すでに普及している「D－V」との違いに戸惑う顧客が多く、両者の良さを併せ持つ商品として発売したのが今回の「U－Port Pro」となる。

前作「U－Port」も性能は確かで「慣れれば使いやすい」（高山社長）もののネックとなったのが、小型・低価格化を追求するあまり、装置自体に設けていた液晶パネルと操作ボタン（全ての数字・アルファベット利用可）を省力したこと。

替わって工作機械側の操作パネルで、データを呼び出す仕組みを採用したが「操作が難しい」との声が聞かれ、「D－V」シリーズで好評だった液晶・操作ボタンを復活させるとともに、超コンパクト設計（110ミリ×156・6ミリ×28ミリ・545グラム）とし、投入する運びとなった。

切削工場での使用を想定し、粉塵やオイルミスト対策に万全を期したほか、底面はマグネット吸着式となっており、スペースも気にせず、取り付けられる。複数ファイルの連結連続加工、一括データ取り込みにも対応しており、希望小売価格は15万5000円。機械・工具販売店などを通じ、全国に販売する。

高山裕社長の話　フロッピーディスクでしのいでいる業者さんもまだ多いため、潜在的な需要はかなりあるはず。既存顧客はもちろん、新しい需要も取り込んでいきたい。

概要

ぐんま経済新聞に掲載された実際の記事です。